

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-131075
 (43)Date of publication of application : 09.05.2002

(51)Int.Cl. G01C 21/00
 B61L 25/02
 G06F 15/02
 G08G 1/005
 H04Q 7/34
 // G01S 5/14

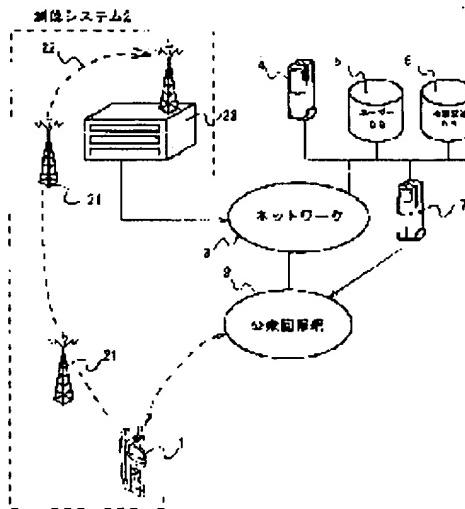
(21)Application number : 2000-319389 (71)Applicant : KOMU SQUARE:KK
 (22)Date of filing : 19.10.2000 (72)Inventor : IRIE MASAKI

(54) START INFORMATION REPORT SYSTEM AND LAST TRAIN REPORT SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a service system notifying a time to start toward a nearest station from a current position in order to get on a railway at the optimum time.

SOLUTION: A positioning system 2 specifies the position P of a portable terminal 1. A start information specification system 4 specifies the nearest station, a walking moving route from the position P to the nearest station, a railway route up to a destination station, a getting-on time at the nearest station for arriving on the destination station at a target time and a start time from the position P for arriving on the nearest station at the getting-on time. The renewal of information is performed by cyclically repeating the specification of the position P and tracking the movement of a portable terminal, and a user successively judges the time to start from the position P. A start information notification system 7 transmits the above information to the portable terminal 1 at the start time. The user knows the whole information of necessary route and time, and since their information is notified to the user at a time point when the user starts, the user is prevented from putting many hours in business and amusement.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-131075

(P2002-131075A)

(43)公開日 平成14年5月9日(2002.5.9)

(51)Int.Cl.⁷

G 01 C 21/00
B 61 L 25/02
G 06 F 15/02
G 08 G 1/005
H 04 Q 7/34

識別記号

355

F I

G 01 C 21/00
B 61 L 25/02
G 06 F 15/02
G 08 G 1/005
G 01 S 5/14

テ-マコ-ト(参考)

Z 2 F 0 2 9
A 5 B 0 1 9
3 5 5 A 5 H 1 6 1
5 H 1 8 0
5 J 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 15 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願2000-319389(P2000-319389)

(22)出願日

平成12年10月19日(2000.10.19)

(71)出願人 393026179

株式会社コムスクエア
東京都中央区銀座3-4-12 文祥堂ビル
6F

(72)発明者 入江 正木

東京都中央区銀座3-4-12 文祥堂ビル
株式会社コムスクエア内

(74)代理人 100087790

弁理士 尾関 伸介

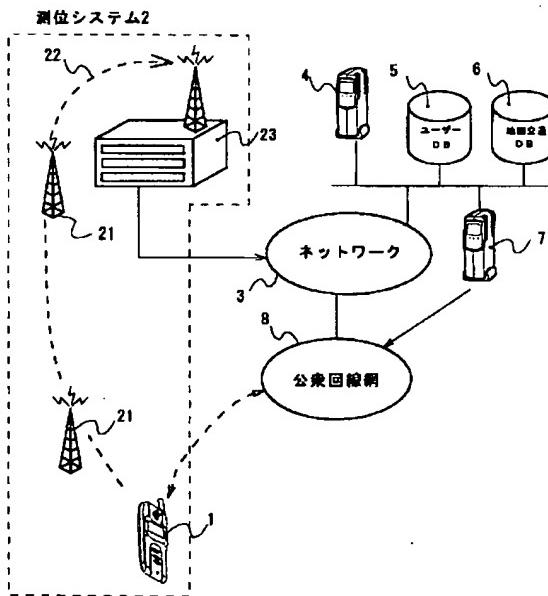
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 出発情報お知らせシステム及び終電情報お知らせシステム

(57)【要約】

【課題】鉄道に乗車するために、現在位置から最寄駅に向かって出発するべき時を最適な時刻に告知するサービスシステムの提供。

【解決手段】測位システム2は携帯端末1の位置Pを特定する。出発情報特定システム4は、最寄り駅と、位置Pから最寄り駅までの歩行移動経路と、目的の駅までの鉄道路線経路と、目的の駅に目的の時刻に到着するための最寄り駅での乗車時刻と、その乗車時刻に最寄り駅に到着するための位置Pからの出発時刻とを特定する。位置Pの特定を周期的に繰り返すことで、携帯端末1(ユーザー)の移動に追従して情報の更新を行い、ユーザーが位置Pから出発するべき時刻を継続的に判断する。出発情報告知システム7は、出発時刻において上述の情報を携帯端末1に送信する。ユーザーは、必要な経路と時刻の全ての情報を知り得るし、それらの情報は出発すべき時刻に至った時点でユーザーに告知されるので、仕事や遊興に熱中するあまりつい時間を過ごしてしまうことは確実に防止できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】位置情報システムで取得した携帯情報端末の現在位置と、該携帯情報端末の所持者の移動目的地および該所持者が該移動目的地へ至るべき到着時刻に基づき、該所持者が現在位置から出発し、交通機関に乗って前記移動目的地に前記到着時刻以前に至るために、該所持者が現在位置を出発すべき時刻を前記携帯情報端末により前記所持者に知らせる出発情報お知らせシステム。

【請求項2】測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、

前期測位システムは、前記携帯端末の位置Pの検出を所定の周期で行い、前期出発情報特定システムに該位置Pを伝達し、

前期携帯端末は公衆回線網を通じてアクセスされ、前期地図交通データベースは、鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納し、

前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sと該ユーザーが所望する該駅Sへの到着時刻T_aとをユーザー固有の情報として格納し、

前記出発情報特定システムは、前記地図情報に基づき、前期測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅S_nと該位置Pから該最寄り駅S_nまでの歩行移動経路R_wとを特定し、

前記歩行移動経路R_wを所定の速度で移動する際の移動時間T_wを算出し、

前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅S_nから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、

前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとにに基づき、前記到着時刻T_sに前記駅Sへの到着が可能となるための前記最寄り駅S_nでの乗車時刻T_rを特定し、前記乗車時刻T_rから前記移動時間T_w及び所定の猶予時間T_mを減算して前記位置Pからの出発時刻T_sを算出し、

前記最寄り駅S_nの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって同一の最寄り駅が特定され、かつ現在時刻が前記出発時刻T_sを過ぎている場合に、前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと、前記出発時刻T_sとを前記出発情報報告知システムに伝達し、

前記出発情報報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻T_sとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする出発情報お知らせシステム。

【請求項3】測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベース

と、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、

前期地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納しており、

前期測位システムは、衛星航法によって携帯端末の位置Pの検出を行い、該携帯端末に該位置Pの情報を送信し、

前期携帯端末は、公衆回線網を通じてアクセスし、かつアクセスされ、前記位置Pの情報を受信し、前記受信した位置Pの情報を公衆回線網経由で前記出発情報特定システムに転送し、

前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sと該ユーザーが所望する該駅Sへの到着時刻T_aとをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、

前記地図情報に基づき、前期測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅S_nと該位置Pから該最寄り駅S_nまでの歩行移動経路R_wとを特定し、

前記歩行移動経路R_wを所定の速度で移動する際の移動時間T_wを算出し、

前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅S_nから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、

前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとにに基づき、前記到着時刻T_sに前記駅Sへの到着が可能となるための前記最寄り駅S_nでの乗車時刻T_rを特定し、前記乗車時刻T_rから前記移動時間T_w及び所定の猶予時間T_mを減算して前記位置Pからの出発時刻T_sを算出し、

前記最寄り駅S_nの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって同一の最寄り駅が特定され、かつ現在時刻が前記出発時刻T_sを過ぎている場合に、前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと、前記出発時刻T_sとを前記出発情報報告知システムに伝達し、

前記出発情報報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻T_sとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする出発情報お知らせシステム。

【請求項4】測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、

前期測位システムは、前記携帯端末の位置Pの検出を所定の周期で行い、前期出発情報特定システムに該位置Pを伝達し、

前期携帯端末は公衆回線網を通じてアクセスされ、前記地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納し、

前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sをユーザー固有の情報として格納し、

前記出発情報特定システムは、

前記地図情報に基づき、前記測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅S_nと該位置Pから該最寄り駅S_nまでの歩行移動経路R_wとを特定し、

前記歩行移動経路R_wを所定の速度で移動する際の移動時間T_wを算出し、

前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅S_nから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、

前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとに基づき前記駅Sに最終電車で到着することが可能となるための前記最寄り駅S_nでの乗車時刻T_rを特定し、前記乗車時刻T_rから前記移動時間T_wと所定の猶予時間T_mとを減算して前記位置Pからの出発時刻T_sを算出し、

前記最寄り駅S_nの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって同一の最寄り駅が特定され、かつ現在時刻が前記出発時刻T_sを過ぎている場合に前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと、前記出発時刻T_sとを前記出発情報報告知システムに伝達し、

前記出発情報報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと、前記出発時刻T_sとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする終電情報お知らせシステム。

【請求項5】測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、

前期地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納するものであり、

前期測位システムは、衛星航法によって携帯端末の位置Pの検出を行い、該携帯端末に該位置Pの情報を送信し、

前期携帯端末は、公衆回線網を通じてアクセスし、かつアクセスされ、前記位置Pの情報を受信し、前記受信した位置Pの情報を公衆回線網経由で前記出発情報特定システムに転送し、

前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sと該ユーザーが所望する該駅Sへの到着時刻T_aとをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、

前記地図情報に基づき、前記測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅S_nと該位置Pから該最寄り駅S_nまでの歩行移動経路R_wとを特定し、

前記歩行移動経路R_wを所定の速度で移動する際の移動時間T_wを算出し、前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅S_nから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとに基づき、前記駅Sに最終電車で到着することが可能となるための前記最寄り駅S_nでの乗車時刻T_rを特定し、前記乗車時刻T_rから前記移動時間T_w及び所定の猶予時間T_mとを減算して前記位置Pからの出発時刻T_sを算出し、

前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと、前記出発時刻T_sとを出発情報報告知システムに伝達するものであり、前記最寄り駅S_nの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって、同一の最寄り駅を特定し、かつ現在時刻が前記出発時刻T_sを過ぎている場合に前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと、前記出発時刻T_sとを前記出発情報報告知システムに伝達し、

前記出発情報報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻T_sとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする終電情報お知らせシステム。

【請求項6】前記測位システムは、前記携帯端末の位置の検出を所定の周期のもとで繰り返し行い、

前記出発情報特定システムは、前記測位システムが伝達する前記携帯端末の位置Pから特定する最寄り駅S_nと、前記最寄り駅S_nから前記駅Sまでの前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rとを情報として前記ユーザーデータベースに格納し、前記地図情報に基づき今回検出された位置からの今回の最寄り駅を特定した後、一周期前に検出された位置から特定した前回の最寄り駅の情報を前記ユーザーデータベースから読み込み、

前記今回の最寄り駅と前記前回の最寄り駅との比較判定を行い、

前記今回の最寄り駅と前記前回の最寄り駅とが一致しない場合、

前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅の情報を前記今回の最寄り駅の情報に更新して該ユーザーデータベースに再格納し、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅から前記駅Sまでの鉄道路線経路の情報を前記今回の最寄り駅から前記駅Sまでの鉄道路線経路の情報に更新して該ユーザーデータベースに再格納し、

前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅での乗車時刻の情報を前記今回の最寄り駅での乗車時刻の情報を更新して該ユーザーデータベースに再格納し、前記今回の最寄り駅と前記前回の最寄り駅とが一致する

場合、

前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅の情報と、

前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅から前記駅Sまでの鉄道路線経路の情報と、

前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅での乗車時刻T_rの情報とを、そのまま前記ユーザーデータベース内に維持し、

前記比較判定後の前記ユーザーデータベースが有する最寄り駅の情報の読み込みと、

前記今回検出された位置から前記読み込まれた最寄り駅までの歩行移動経路の特定と、

前記歩行移動経路を所定の速度で移動する場合の移動時間T_wの算出と、

前記乗車時刻T_rから前記移動時間T_wと所定の猶予時間T_mとを減算することによる前記今回検出された位置からの出発時刻T_sの算出とを、前記携帯端末の位置の検出が繰り返される毎に行い、

前記出発時刻T_sと現在時刻とを比較判定し、

前記現在時刻が前記出発時刻T_sを過ぎている場合、

前記ユーザーデータベースに格納されてある前記最寄り駅S_nの情報と、前記歩行移動経路R_wの情報と、前記鉄道路線経路Rの情報と、前記乗車時刻T_rの情報とを読み込み、

前記最寄り駅S_nと、前記歩行移動経路R_wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T_rと前記出発時刻T_sとを前記出発情報報告システムに伝達することを特徴とする請求項1若しくは請求項2に記載の出発情報お知らせシステム又は請求項3若しくは請求項4に記載の終電情報お知らせシステム。

【請求項7】前記出発情報特定システムは、前記ユーザーの住所周辺の複数の駅を前記ユーザーに提示し、該複数の駅から前記ユーザーが選択した駅を駅Sとして特定する手段であることを特徴とする請求項5に記載の出発情報お知らせシステム又は終電情報お知らせシステム。

【請求項8】前記告知は、前記ユーザーによる再生が可能な自動音声メッセージで行うことを特徴とする請求項6に記載の出発情報お知らせシステム又は終電情報お知らせシステム。

【請求項9】前記告知は、前記ユーザーによる再生が可能な携帯端末用電子メール画面で行うことを行なうことを特徴とする請求項6に記載の出発情報お知らせシステム又は終電情報お知らせシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、測位システムによる携帯端末の位置検出技術と、検出された位置から予め登録した位置までの最適移動経路（鉄道による移動を含む）の判定技術とに関し、さらに詳しくは、これらの技術を利用した出発情報お知らせシステム又は終電情報お

知らせシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】近年、測位技術を利用した様々な位置情報提供サービスシステムが普及している。代表的なものとしては、株式会社NTTドコモが提供する「いまどこサービス」がある。これは、複数の基地局が受信する電界強度の差によってPHSの概ねの位置を特定し、検索依頼者にファクシミリやインターネットのサイトによって告知するサービスシステムである。また、他の位置情報提供サービスシステムとして、複数の地球周回衛星からの電波を受信して三角測量の原理で絶対的な位置を計算で求める衛星航法による測位システム（いわゆるGPS；グローバルポジショニングシステム）があり、これは主に車両位置検索システムとして実用化されてある。市販のGPSは、現在位置から予め登録した目的地までの最適移動経路を提示する機能（いわゆるナビゲーション機能）も有するものが一般的である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】わが国は、大都市圏で生活する人々の便宜に鑑み、複数の交通機関が整備された社会インフラの進んだ国家であるが、意外にその利用のための情報は整備されていない。交通機関が世に登場して以来、交通機関の選択と利用の手法は、個々人が交通機関（電車、地下鉄及びバス等の公衆用交通機関）の時刻表および路線図に基づいて自己の判断で行うことなどが主となっている。しかし、たまたま所用で来た場所から郊外の自宅へ帰宅をする場合、鉄道会社が異なる何本もの電車を乗り継ぐ必要がある時などは、各社で路線情報や時刻情報の提供の仕方が異なるためわかりにくく

い。また、目的地への到着時間から逆算した出発時間を調べていても、仕事や遊興に熱中するあまりつい時間を過ごしてしまうことは多くの人が一度は経験したことと思われる。特に残業や夜の遊興で飲みすぎのため最終電車を逃したときは、失望と後悔でなんとも言えない気分になるものである。この電車の乗り遅れのおそれは上述の交通機関の選択と利用を自己の判断で行うかぎり必ず生じる懸念といえる。従来の技術で説明した測位システムはリアルタイムの位置情報を提供することが可能であるが、交通機関、特に鉄道利用の便宜を図るものではない。本発明はこれらの課題に鑑みて考案されたものであり、任意の携帯端末の位置に対する最寄り駅の位置や、鉄道路線経路を含む移動経路、および所望する駅への到着時刻からの逆算される現在位置からの出発時刻等の鉄道利用者の便宜を図る情報を利用者が出発するのに最適な時刻に利用者に告知するサービスシステムの提供を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するための本発明の要旨とするところは、次の各項の発明に存する。

[1] 位置情報システムで取得した携帯情報端末の現在位置と、該携帯情報端末の所持者の移動目的地および該所持者が該移動目的地へ至るべき到着時刻とに基づき、該所持者が現在位置から出発し、交通機関に乗って前記移動目的地に前記到着時刻以前に至るために、該所持者が現在位置を出発すべき時刻を前記携帯情報端末により前記所持者に知らせる出発情報お知らせシステム。

[2] 測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、前期測位システムは、前記携帯端末の位置Pの検出を所定の周期で行い、前期出発情報特定システムに該位置Pを伝達し、前期携帯端末は公衆回線網を通じてアクセスされ、前期地図交通データベースは、鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納し、前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sと該ユーザーが所望する該駅Sへの到着時刻Taとをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、前記地図情報に基づき、前期測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅Snと該位置Pから該最寄り駅Snまでの歩行移動経路Rwとを特定し、前記歩行移動経路Rwを所定の速度で移動する際の移動時間Twを算出し、前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅Snから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとに基づき、前記到着時刻Tsに前記駅Sへの到着が可能となるための前記最寄り駅Snでの乗車時刻Trを特定し、前記乗車時刻Trから前記移動時間Tw及び所定の猶予時間Tmを減算して前記位置Pからの出発時刻Tsを算出し、前記最寄り駅Snの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって同一の最寄り駅が特定され、かつ現在時刻が前記出発時刻Tsを過ぎている場合に、前記最寄り駅Snと、前記歩行移動経路Rwと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻Trと、前記出発時刻Tsとを前記出発情報報告知システムに伝達し、前記出発情報報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅Snと、前記歩行移動経路Rwと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻Tsとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする出発情報お知らせシステム。

【0005】[3] 測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、前期地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納しており、前期測位システムは、衛星航法によって携帯端末の位置Pの検出を行い、該携帯端末に該位置Pの情報を送信し、前期携帯端末は、公衆回線網を通じてアクセスし、かつアクセスされ、前記位置Pの情報を受信し、前記受信した位置Pの情報を公衆回線網経由で前記出発情報特

定システムに転送し、前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sと該ユーザーが所望する該駅Sへの到着時刻Taとをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、前記地図情報に基づき、前期測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅Snと該位置Pから該最寄り駅Snまでの歩行移動経路Rwとを特定し、前記歩行移動経路Rwを所定の速度で移動する際の移動時間Twを算出し、前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅Snから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとに基づき、前記到着時刻Taとをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、前記地図情報に基づき、前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅Snと該位置Pから該最寄り駅Snまでの歩行移動経路Rwとを特定し、前記歩行移動経路Rwを所定の速度で移動する際の移動時間Twを算出し、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻Trと、前記出発時刻Tsとを前記出発情報報告知システムに伝達し、前記出発情報報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅Snと、前記歩行移動経路Rwと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻Tsとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする出発情報お知らせシステム。

【0006】[4] 測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、前期測位システムは、前記携帯端末の位置Pの検出を所定の周期で行い、前期出発情報特定システムに該位置Pを伝達し、前期携帯端末は公衆回線網を通じてアクセスされ、前期地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納し、前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、前記地図情報に基づき、前記測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅Snと該位置Pから該最寄り駅Snまでの歩行移動経路Rwとを特定し、前記歩行移動経路Rwを所定の速度で移動する際の移動時間Twを算出し、前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅Snでの乗車時刻Trを特定し、前記乗車時刻Trから前記移動時間Twと所定の猶予時間Tmとを減算して前記位置Pからの出発時刻Tsを算出し、前記最寄り駅Snの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって同一の最寄り駅が特定され、かつ現在時刻が前記出発時刻Tsを過ぎている場合に、前記最寄り駅Snと、前記歩行移動経路Rwと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻Tsとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする出発情報お知らせシステム。

【0007】[5] 測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報報告知システムとから構成され、前期地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納しており、前期測位システムは、衛星航法によって携帯端末の位置Pの検出を行い、該携帯端末に該位置Pの情報を送信し、前期携帯端末は、公衆回線網を通じてアクセスし、かつアクセスされ、前記位置Pの情報を受信し、前記受信した位置Pの情報を公衆回線網経由で前記出発情報特

前記歩行移動経路R wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T rと、前記出発時刻T sとを前記出発情報告知システムに伝達し、前記出発情報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅S nと、前記歩行移動経路R wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T rと、前記出発時刻T sとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする終電情報お知らせシステム。

【0007】 [5] 測位システムと、1以上の個数の携帯端末と、地図交通データベースと、ユーザーデータベースと、出発情報特定システムと、出発情報告知システムとから構成され、前期地図交通データベースは鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を格納するものであり、前期測位システムは、衛星航法によって携帯端末の位置Pの検出を行い、該携帯端末に該位置Pの情報を送信し、前期携帯端末は、公衆回線網を通じてアクセスし、かつアクセスされ、前記位置Pの情報を受信し、前記受信した位置Pの情報を公衆回線網経由で前記出発情報特定システムに転送し、前期ユーザーデータベースは、前記携帯端末のユーザーが到着を所望する駅Sと該ユーザーが所望する該駅Sへの到着時刻T aとをユーザー固有の情報として格納し、前記出発情報特定システムは、前記地図情報に基づき、前記測位システムによる前記位置Pの検出の度に、該位置Pに関する最寄り駅S nと該位置Pから該最寄り駅S nまでの歩行移動経路R wとを特定し、前記歩行移動経路R wを所定の速度で移動する際の移動時間T wを算出し、前記鉄道路線情報に基づき前記最寄り駅S nから前記駅Sまでの鉄道路線経路Rを特定し、前記鉄道時刻情報と前記特定された鉄道路線経路Rとに基づき、前記駅Sに最終電車で到着することが可能となるための前記最寄り駅S nでの乗車時刻T rを特定し、前記乗車時刻T rから前記移動時間T w及び所定の猶予時間T mとを減算して前記位置Pからの出発時刻T sを算出し、前記最寄り駅S nと、前記歩行移動経路R wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T rと、前記出発時刻T sとを出発情報告知システムに伝達するものであり、前記最寄り駅S nの特定の繰り返しにおいて少なくとも2回にわたって、同一の最寄り駅を特定し、かつ現在時刻が前記出発時刻T sを過ぎている場合に前記最寄り駅S nと、前記歩行移動経路R wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T rと、前記出発時刻T sとを前記出発情報告知システムに伝達し、前記出発情報告知システムは、前記公衆回線網を通じて、前記最寄り駅S nと、前記歩行移動経路R wと、前記鉄道路線経路Rと、前記出発時刻T sとからなる告知を前記携帯端末に対し行うことを特徴とする終電情報お知らせシステム。

【0008】 [6] 前記測位システムは、前記携帯端末の位置の検出を所定の周期のもとで繰り返し行い、前記出発情報特定システムは、前記測位システムが伝達する

前記携帯端末の位置Pから特定する最寄り駅S nと、前記最寄り駅S nから前記駅Sまでの前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T rとを情報として前記ユーザーデータベースに格納し、前記地図情報に基づき今回検出された位置からの今回の最寄り駅を特定した後、一周期前に検出された位置から特定した前回の最寄り駅の情報を前記ユーザーデータベースから読み込み、前記今回の最寄り駅と前記前回の最寄り駅との比較判定を行い、前記今回の最寄り駅と前記前回の最寄り駅とが一致しない場合、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅の情報を前記今回の最寄り駅の情報を更新して該ユーザーデータベースに再格納し、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅から前記駅Sまでの鉄道路線経路の情報を前記今回の最寄り駅から前記駅Sまでの鉄道路線経路の情報を更新して該ユーザーデータベースに再格納し、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅での乗車時刻の情報を前記今回の最寄り駅での乗車時刻の情報を更新して該ユーザーデータベースに再格納し、前記今回の最寄り駅と前記前回の最寄り駅とが一致する場合、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅の情報と、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅から前記駅Sまでの鉄道路線経路の情報と、前記ユーザーデータベースが有する前記前回の最寄り駅での乗車時刻T rの情報をと、そのまま前記ユーザーデータベース内に維持し、前記比較判定後の前記ユーザーデータベースが有する最寄り駅の情報の読み込みと、前記今回検出された位置から前記読み込まれた最寄り駅までの歩行移動経路の特定と、前記歩行移動経路を所定の速度で移動する場合の移動時間T wの算出と、前記乗車時刻T rから前記移動時間T wと所定の猶予時間T mとを減算することによる前記今回検出された位置からの出発時刻T sの算出とを、前記携帯端末の位置の検出が繰り返される毎に行い、前記出発時刻T sと現在時刻とを比較判定し、前記現在時刻が前記出発時刻T sを過ぎている場合、前記ユーザーデータベースに格納されてある前記最寄り駅S nの情報と、前記歩行移動経路R wの情報と、前記鉄道路線経路Rの情報と、前記乗車時刻T rの情報を読み込み、前記最寄り駅S nと、前記歩行移動経路R wと、前記鉄道路線経路Rと、前記乗車時刻T rと前記出発時刻T sとを前記出発情報告知システムに伝達することを特徴とする前記

[1] 若しくは前記[2]に記載の出発情報お知らせシステム又は前記[3]若しくは前記[4]に記載の終電情報お知らせシステム。

【0009】 [7] 前記出発情報特定システムは、前記ユーザーの住所周辺の複数の駅を前記ユーザーに提示し、該複数の駅から前記ユーザーが選択した駅を駅Sして特定する手段であることを特徴とする前記[5]に記載の出発情報お知らせシステム又は終電情報お知らせシステム。

【0010】[8] 前記告知は、前記ユーザーによる再生が可能な自動音声メッセージで行うことを特徴とする前記[6]に記載の出発情報お知らせシステム又は終電情報お知らせシステム。

【0011】[9] 前記告知は、前記ユーザーによる再生が可能な携帯端末用電子メール画面で行うことを特徴とする前記[6]に記載の出発情報お知らせシステム又は終電情報お知らせシステム。

【0012】

【発明の実施の形態】図1は、本発明のうちの出発情報お知らせシステムに係る一実施の形態を表すものであり、出発情報お知らせシステムの全体構成図である。この図1から出発情報お知らせシステムによるサービスの番組（いわゆるコンテンツ）への登録手続きに関する構成を抜粋したのが図2である。図2に基づいて携帯端末1から出発情報お知らせサービスへの登録作用を可能とする構成を説明する。携帯端末1は、本発明の実施のために特別の機能を有するものではなく市販の携帯電話でインターネット接続機能を有するもの（いわゆるブラウザ搭載携帯端末と呼ばれるもの）を想定している。これによりより公衆電話回線網8を通じてネットワーク3にアクセスすることができる。一方、出発情報特定システム4はネットワーク3上に携帯端末1のユーザーがアクセス可能な出発情報お知らせサービスの番組（いわゆるコンテンツ）の画面（サイト）を提供する。かかるコンテンツはユーザー登録サイトとユーザー利用サイトから成り、それぞれのサイトはユーザー情報の登録とサービスの利用のための入力インターフェースの機能を有する。ユーザーデータベース5は、ユーザーの名前、住所、携帯電話番号、メールアドレス、ユーザーが所望する到着駅Sと到着時刻Ta（以上をまとめてユーザー基礎情報と称す）、後述のユーザーが選択する告知手段およびID番号といった情報を格納するデータベースである。地図交通データベース6は、鉄道路線情報、鉄道時刻情報および地図情報を予め格納してあるデータベースである。

【0013】ユーザー登録処理の流れについて図3に基づいて説明する。図3は、ユーザー登録処理のフロー図であり、説明の周囲に斜線が施された処理ブロックはユーザーの入力によるものを表す。まず、ユーザーは携帯端末1から出発情報お知らせサービスが設置するネットワーク3上のコンテンツ中のユーザー登録サイトにアクセスする（処理a）。ユーザーは登録サイト中の指示に従い、ユーザー基礎情報を入力し、出発情報特定システム4に送信する（処理b）。出発情報特定システム4はこの送信をうけてユーザー基礎情報に対応するID番号を探査し、ユーザー基礎情報とID番号をユーザーデータベース5に格納する（処理c）。次に出発情報特定システム4は電車に乗るために出発すべきであることを告知する複数の手段を登録サイト上に提示する（処理d）。係

る複数の手段とは例えば、後述する自動電話連絡、電子メールによる表示等がある。ユーザーはこれらの内から一つの告知手段を選択する（処理e）。選択された告知手段はユーザーデータベース5に格納される（処理f）。ログイン手段としてID番号の入力を要することを登録サイト上に提示する（処理g）。

【0014】図1に基づいて携帯端末1の測位システム2を含む全体の構成について説明する。公衆回線網8の一部を構成する基地局21が受信する携帯端末1の電界

10 強度の差から携帯端末1の位置Pを特定する。位置Pの情報を有する電波22は、複数の基地局21を経て位置情報サービスシステム23に送信される。その後、ネットワーク3を経て出発情報特定システム4に位置Pの情報は伝達される。位置Pの特定は所定の周期で繰り返し行われ、その都度、位置Pの情報は出発情報特定システム4に伝達される。出発情報特定システム4は位置Pの情報から地図情報、鉄道路線情報、鉄道時刻情報を検索して位置Pの最寄り駅S_nと、位置Pから最寄り駅までの歩行移動経路R_wと、最寄り駅S_nから到着を所望する駅Sまでの鉄道路線経路Rと、所望する到着時刻T_sとを現在時刻が出発時刻T_sを過ぎた時点で出発情報報告システム7に伝達する。出発情報報告システム7は、公衆回線網8を介して携帯端末1にこれらの情報を転送する。

20 【0015】出発情報お知らせサービス利用の流れを図4に基づいて説明する。図4は、出発情報お知らせサービス利用のフロー図であり、説明の周囲に斜線が施された処理ブロックはユーザーの入力によるものを表す。ユーザーは携帯端末1から出発情報お知らせサービスが設置するネットワーク3上のコンテンツ中のユーザー利用サイトにアクセスする。そしてID番号の入力（図3処理gで告知されたログイン手段）によってログインする（処理h）。出発情報特定システム4は入力されたID番号をユーザーデータベース5内の情報に照会し、適する場合はユーザー利用サイトをユーザーの入力が可能となる画面に更新する（処理i）。ユーザーはサービス開始の入力を（処理j）。なお、この入力後、ユーザーは、ユーザー利用サイトへのアクセスを終了するか、終了しないかに拘わらず、出発情報お知らせサービスは継続する。この入力の時点から測位システムによる位置

30 Pの測位の繰り返しが開始され、出発情報特定システム4に位置Pの情報が伝達される（処理k）。出発情報特定システム4は位置Pの情報から地図交通データベース6内の地図情報を検索し、位置Pの最寄り駅S_nを特定する（処理m）。次に前回特定された最寄り駅（開始直後の場合は予め格納されてあるダミーの駅を読みこむ）との比較判定を行う（処理n）。この比較は携帯端末1を持つユーザーが同一の最寄り駅S_n周辺で活動しているか否かを見極めるものであり、最寄り駅S_nが変化しない場合は以降の処理ブロックで最寄り駅S_nに関する

情報を維持するものである。最寄り駅 S_n が不一致の場合、図 4 の Yへと進む。最寄り駅 S_n は今回特定されたものに更新されてユーザーデータベース 5 に格納される（処理 p）。出発情報特定システム 4 は、ユーザーデータベース 5 のユーザー基礎情報から到着を所望する駅 S を読み込み、地図交通データベース 6 の鉄道路線情報を検索して最寄り駅 S_n から駅 S までの鉄道路線経路 R を特定する。特定された今回の鉄道路線経路 R は前回の鉄道路線経路を置き換えてユーザーデータベース 5 に情報として格納される（処理 q）。出発情報特定システム 4 は次にユーザーデータベース 5 のユーザー基礎情報から到着時刻 T_s を読み込み、到着時刻 T_s に駅 S への到着が可能となるための最寄り駅 S_n での乗車時刻 T_r の特定を行う。特定された今回の乗車時刻 T_r は前回の乗車時刻を置き換えてユーザーデータベース 5 に格納される（処理 r）。処理 n で最寄り駅が一致する場合、図 4 の Zへと進み、処理 p、処理 q および処理 r はバスされる。即ち、前回特定された最寄り駅 S_n 、鉄道経路 R および乗車時刻 T_r の情報はそのまま維持される。続いて出発情報特定システム 4 は、ユーザーデータベース 5 の地図情報を検索して位置 P から最寄り駅 S_n までの移動経路 R_w の特定と、移動経路 R_w を所定の速度で歩行する場合の移動時間 T_w の算出とを行う。所定の速度とは人間の平均的な歩行速度から特定して予め出発情報特定システム 4 が従う処理ルールの一部として保持しているものである。また、ユーザーが基本情報の登録処理の中で任意に入力する構成としても良い。更にユーザーデータベース 5 内の乗車時刻 T_r を読み込み、乗車時刻 T_r から算出された移動時間 T_w と所定の猶予時間 T_m とを減算して位置 P からの出発時刻 T_s を算出する（処理 s）。所定の猶予時間は、ユーザーが出発するための準備を行う時間等に配慮して予め出発情報特定システム 4 が従う処理ルールの一部として保持しているものである。又、ユーザーが基本情報の登録処理で任意に入力する構成としても良い。次に出発情報特定システム 4 は、算出された出発時間 T_s と現在時刻を比較し、出発すべきかどうかを判定する（処理 t）。現在時刻がまだ出発時刻 T_s に至っていない場合は図 4 の Xへと進み、位置 P の測位（処理 k）から一連の処理を繰り返す。現在時刻が出発時刻 T_s に至った場合、出発情報特定システム 4 は最寄り駅 S_n と、最寄り駅 S_n での乗車時刻 T_r と、歩行移動経路 R_w と、鉄道路線経路 R および登録時にユーザーが選択した告知手段（以上をまとめて出発情報と略す）をユーザーデータベース 5 から読み込む（処理 u）。そして出発情報告知システム 7 に出発時刻 T_s 、即ち現在時刻と、出発情報を伝達する（処理 v）。出發情報告知システム 7 は現在の位置 P から出発すべき旨と、出発時刻 T_s と、到着を所望する駅 S までの移動を速やかに行うための一連の情報である出発情報を公衆電話回線網 8 を通じて携帯端末 1 に告知する

（処理 w）。告知を受けた後、ユーザーはユーザー利用サイトでサービス終了の入力を行う（処理 x）。

【0016】告知手段の詳細について説明する。ユーザーが選択した告知手段が音声によるものの場合、携帯端末 1 へ自動音声のメッセージが送られる。メッセージは例えば「出発のお時間をお知らせします。現在の時刻〇時×分。ここからの最寄り駅は□□線△△駅、△△駅での乗車すべき時刻は△時□分。△△駅は、ここから 100 メートル東方の 2 つ目の信号を右折し、200 メートル前方のコンビニエンスストアの角を左折し、50m 前方にあり。路線経路は△△駅から○○駅、××線に乗り換えて○○駅から□△駅。」といったものになる。メッセージ機能に余裕があれば、乗り換え時刻も加えて告知することも利便性を向上する情報となる。また、メッセージは移動電話業者が提供する伝言録音システムで録音することが可能であり、ユーザーが消去しない限り何度でも聞くことができる構成を探る。ユーザーが選択した告知手段が電子メールによるもの場合、携帯端末 1 へメッセージ画面が送られる。図 8 にメッセージ画面の一実施の態様を表す。伝える内容は自動音声メッセージのものと同じである。（a）、（b）、（c）の各図は携帯端末 1 の表示画面の大きさに限りがあるので情報を分割して表示した状態を表す。（a）は出発すべき旨と、現在位置からの最寄り駅と、最寄り駅で乗車すべき時刻とを表示する画面であり、（b）は現在位置から最寄り駅までの移動経路を表示する画面であり、（c）は最寄り駅からユーザーが到着を所望する駅までの路線経路を表示する画面である。ユーザーはこれらのメール画面を携帯端末 1 の画面更新機能で更新して見ることができる。電子メールも移動電話業者が提供する伝言メール記憶システムで記憶しておくことが可能であり、ユーザーが消去しない限り何度でもアクセスすることができる構成を探る。

【0017】出発情報お知らせサービスを自宅への帰宅手段に限定する場合、ユーザー登録項目のうちの到着を所望する駅 S は自宅最寄り駅 S となる。この場合は自宅最寄り駅を選択するルールにしてもよい。図 5 にその場合のユーザー登録処理のフロー図を表す。図 3 と処理 a、処理 c は同じだが、処理 b でのユーザー基礎情報の入力項目には自宅最寄り駅は含まれない。かつ、図 3 の処理 c と処理 d の間に自宅最寄り駅 S の選択のための一連の処理が挿入される点で図 3 と異なる。出発情報特定システム 4 は処理 c c でのユーザー基本情報のユーザーデータベース 5 への格納後、ユーザーの住所に基づいて地図情報を検索し、自宅最寄り駅の候補を複数抽出し、登録サイト上に提示する（処理 d d）。ユーザーは提示された候補の内から好みの駅 S を選択する（処理 e e）。複数候補から選択できるようにしたのはユーザーが駅から自宅までの距離以外の理由で到着駅を選択したい場合に配慮したものである。例えば深夜の帰宅で護身

のため遠回りでも明るい場所が多い経路で帰りたく、その径路は最寄駅と異なる駅からの径路となる場合や、友人宅に寄つてから帰りたいので普段と異なる駅から帰りたいという理由が考えられる。選択された駅Sはユーザーデータベース5に格納され(処理f f)、上述の出発情報お知らせサービス利用の流れ(図4)の中で用いられる。

【0018】出発情報お知らせシステムの測位システムにGPSを利用した場合について説明する。図6は、本発明の一実施の形態である測位システムにGPSを利用した場合の出発情報お知らせシステムの全体構成図である。図1の実施の形態と異なる構成として測位システム9であるGPS衛星92と、測位されるGPS機能搭載形態端末10がある。本実施の形態における測位システムの原理を説明する。GPS衛星92は、GPS機能搭載型携帯端末10との電波91を送受信し、前述の衛星航法によりGPS機能搭載型携帯端末10の現在の位置PをGPS機能搭載型携帯端末10に伝える。かかる位置Pの情報は公衆回線網8とネットワーク3を介して出発情報特定システム4に伝達される。GPS衛星92はGPS機能搭載端末10の位置Pの特定を所定の周期で繰り返し行い、位置Pの情報はかかる繰り返しに応じて出発情報特定システム4に伝達される。ユーザー登録処理とGPSによって特定された位置Pの情報に基づく出発情報お知らせサービスの利用は図2、図3、図4および図5で説明したものと同一の流れで実施することができる。

【0019】本発明のうちの終電情報お知らせシステムに係る一実施の形態について説明する。終電情報お知らせシステムは終電情報を自動告知するという最も大きいニーズに応える発明である。終電情報お知らせシステムは、ユーザーが到着を所望する駅Sが自宅最寄り駅であり、且つ、かかる駅への到着を所望する時刻Taが最終電車の時刻に限定される。従ってユーザー登録の段階で到着を所望する駅Sの登録は、図5で説明した自宅最寄り駅の選択ルールを採用することができ、また所望する到着時刻Taの登録機能を省くことができる。具体的にはユーザー登録の流れについて図5における処理bのみが異なる点で前述の出発情報お知らせシステムと相違する。図5における処理bにおいて入力されるユーザー基礎情報は、ユーザーの名前、住所、携帯電話番号、メールアドレスのみでユーザーが所望する到着駅Sと到着時刻Taはない。

【0020】終電情報お知らせサービス利用の流れを図7に基づいて説明する。図7は終電情報お知らせサービス利用のフロー図であり、説明の周囲に斜線が施された処理ブロックはユーザーの入力によるものを表す。処理hから処理pまでの流れ、即ち、ログインから測位システムによって特定された今回の位置Pのユーザーデータベース5への格納までは、図5の出発情報お知らせシ

テムのサービス利用の流れと共通する。続く図5の処理qに相当する処理qqでは鉄道路線経路の代りに帰宅経路としている。これは、位置Pから自宅最寄り駅Snまでの鉄道移動経路Rを意識しての命名である。出発情報特定システム4が地図交通データベース6の鉄道路線情報を検索して特定する点で出発情報お知らせシステムと同じである。次の処理rrは図5の処理に相当し、最寄り駅Snでの終電乗車時刻Trを特定するのである。これも自宅最寄り駅Snへの到着が最終電車による到着となるように最寄り駅Snでの乗車時刻を特定するものであり、地図交通データベース6の鉄道時刻情報を検索して特定する点で出発情報お知らせシステムと同じである。以下、処理sから処理xまでの流れ、即ち、今回の位置からの出発時刻Tsの特定からユーザー利用サイトへのサービス終了の入力までは図5の出発情報お知らせシステムのサービス利用の流れと共通する。

【0021】終電情報お知らせシステムの測位システムにも前述のGPSを利用することも可能である。お知らせシステム全体の構成は図6と同じであり、ユーザー登録処理とGPSによって特定された位置Pの情報に基づく終電情報お知らせサービスの利用は前述の終電お知らせサービスの説明で言及したフローと同一の流れで実施することができる。

【0022】

【発明の効果】本発明の出発情報お知らせシステムは、測位システムによってユーザーが持つ携帯端末の位置を特定し、かかる位置を基準とする最寄り駅と、その位置から最寄り駅までの歩行移動経路と、最寄り駅から目的の駅までの鉄道路線経路t、目的の駅に目的の時刻に到着するための最寄り駅での乗車時刻と、その乗車時刻に最寄り駅に到着するためのその位置からの出発時刻とを特定するものである。更に、ユーザーの位置の特定を周期的に繰り返すことでユーザーの移動に追従して上記の情報の更新を行い、ユーザーが目的の時間に目的の駅に到着するためのその位置から出発すべき時刻を自動的に判断するものである。出発時刻になったと判断するこれらの情報をユーザーの携帯端末に送信する。よってユーザーは目的の移動をするために必要な経路と時刻の全ての情報を自動で知ることができ、かつ、それらの情報は出発すべき時刻に至った時点でユーザーに告知されるので、仕事や遊興に熱中するあまりつい時間を過ごしてしまうことを確実に防止することができる。

【0023】本発明の終電情報お知らせシステムは、出発情報の自動告知というサービスの中でも需要が高い終電情報の告知に特化したシステムであり、到着駅が自宅最寄り駅であって、かつかかる最寄り駅への到着時刻が最終電車の時刻に限定されるため、出発情報お知らせシステムのユーザー登録の作業で必要とする目的の到着時刻の入力を省略することができる。しかも出発情報お知らせシステムと終電情報お知らせシステムとともに、ユー

ザー登録処理においてユーザーの住所周辺の複数の駅からユーザーが選択できる構成を採用している。これよりユーザーは普段は利用しないため駅名や路線に不慣れな駅でも自己の都合に合わせて利用することができる。告知の手段を再生可能な自動音声メッセージ又は携帯端末用電子メール画面とすることで、出発情報の認識性がよく、かつ出発後の情報の確認も容易に行うことができる。また測位システムにGPSを採用することで基地局の電波網の整備状況に関わらず、測位精度を一律に保つことができる。新興都市や旅行先等の電波網の整備が不十分であってもこれらの土地もおける出発情報の告知サービスを電波網が整った土地と同程度に受けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態である出発情報お知らせシステムの全体構成図を表す。

【図2】図1の構成から出発情報お知らせシステムによるサービスの番組への登録手続きに関する構成を一部抜粋した図を表す。

【図3】その実施の形態に係るユーザー登録処理のフロー図を表す。

【図4】その実施の形態に係る出発情報お知らせサービス利用のフロー図を表す。

【図5】本発明の一実施の形態である自宅最寄り駅を選択するルールを採用する場合のユーザー登録処理のフロー図を表す。

【図6】本発明の一実施の形態である測位システムにGPS

* P Sを利用した場合の出発情報お知らせシステムの全体構成図を表す。

【図7】本発明の一実施の形態である終電情報お知らせサービス利用のフロー図を表す。

【図8】本発明の一実施の形態である告知の手段が電子メールである場合のメッセージ画面の構成を表す。

(a)は出発すべき旨と、現在位置からの最寄り駅と、最寄り駅で乗車すべき時刻とを表示する画面であり、

(b)は現在位置から最寄り駅までの移動経路を表示する画面であり、(c)は最寄り駅から目的の駅までの路線経路を表示する画面である。

【符号の説明】

1…携帯端末

2…測位システム

3…ネットワーク

4…出発情報特定システム

5…ユーザーデータベース

6…地図交通データベース

7…出発情報報告シス

8…公衆回線網

9…測位システム

10…GPS機能搭載形態端末

21…基地局

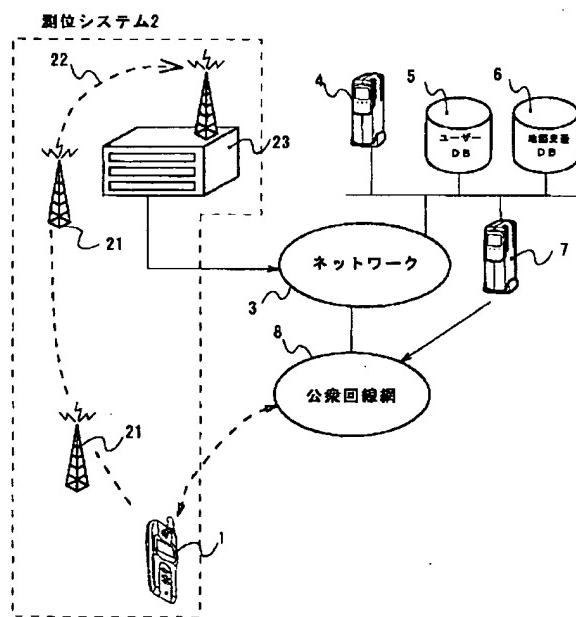
22…電波

23…位置情報サービスシステム

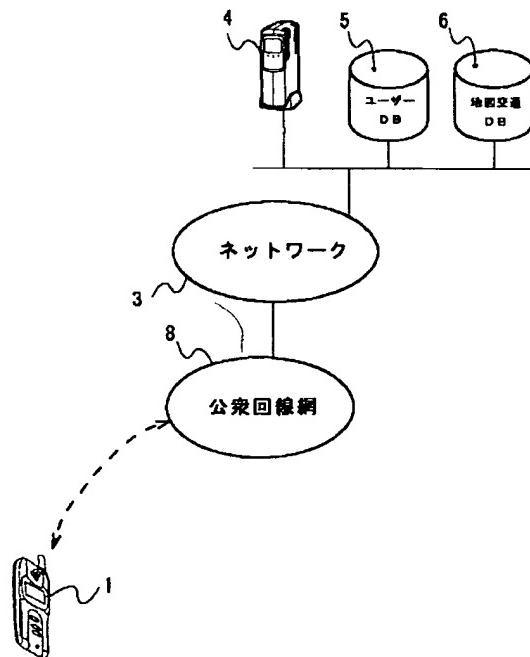
91…電波

92…GPS衛星

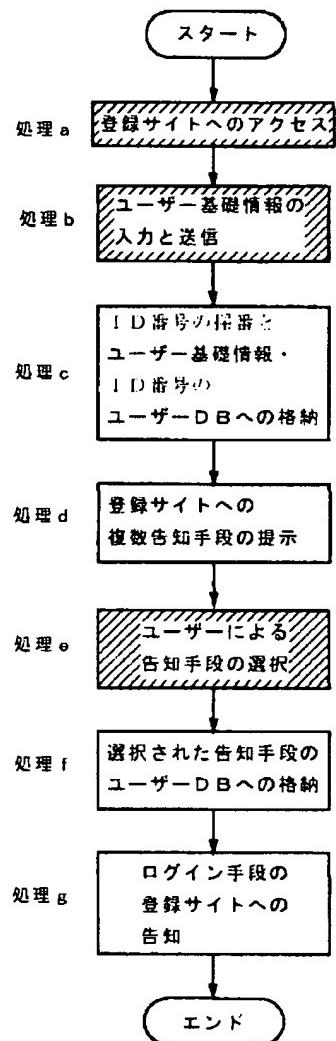
【図1】



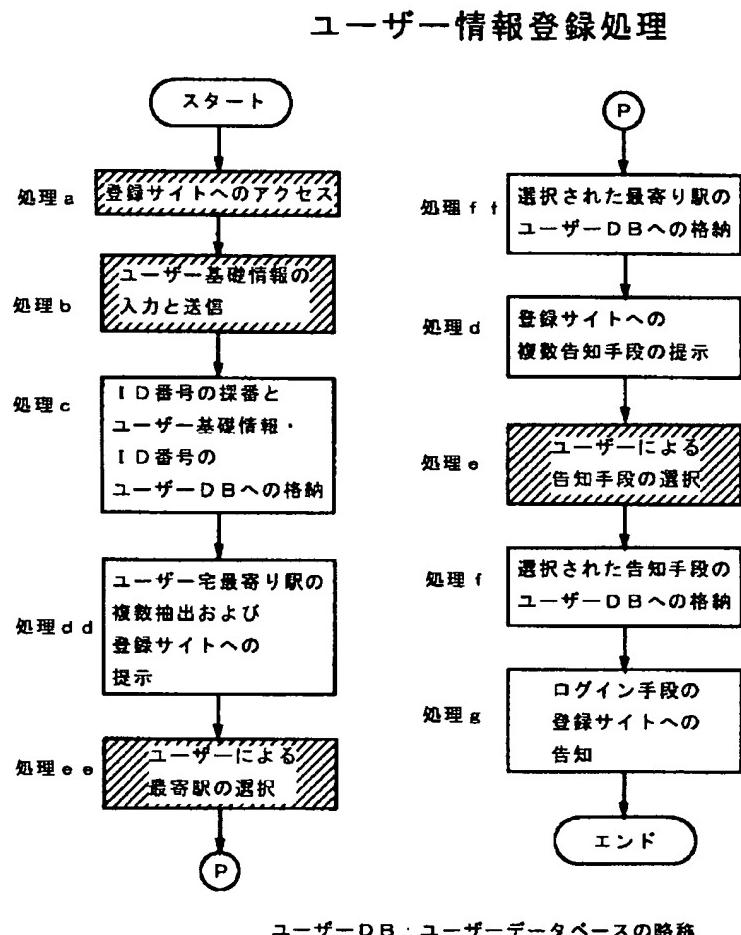
【図2】



【図3】



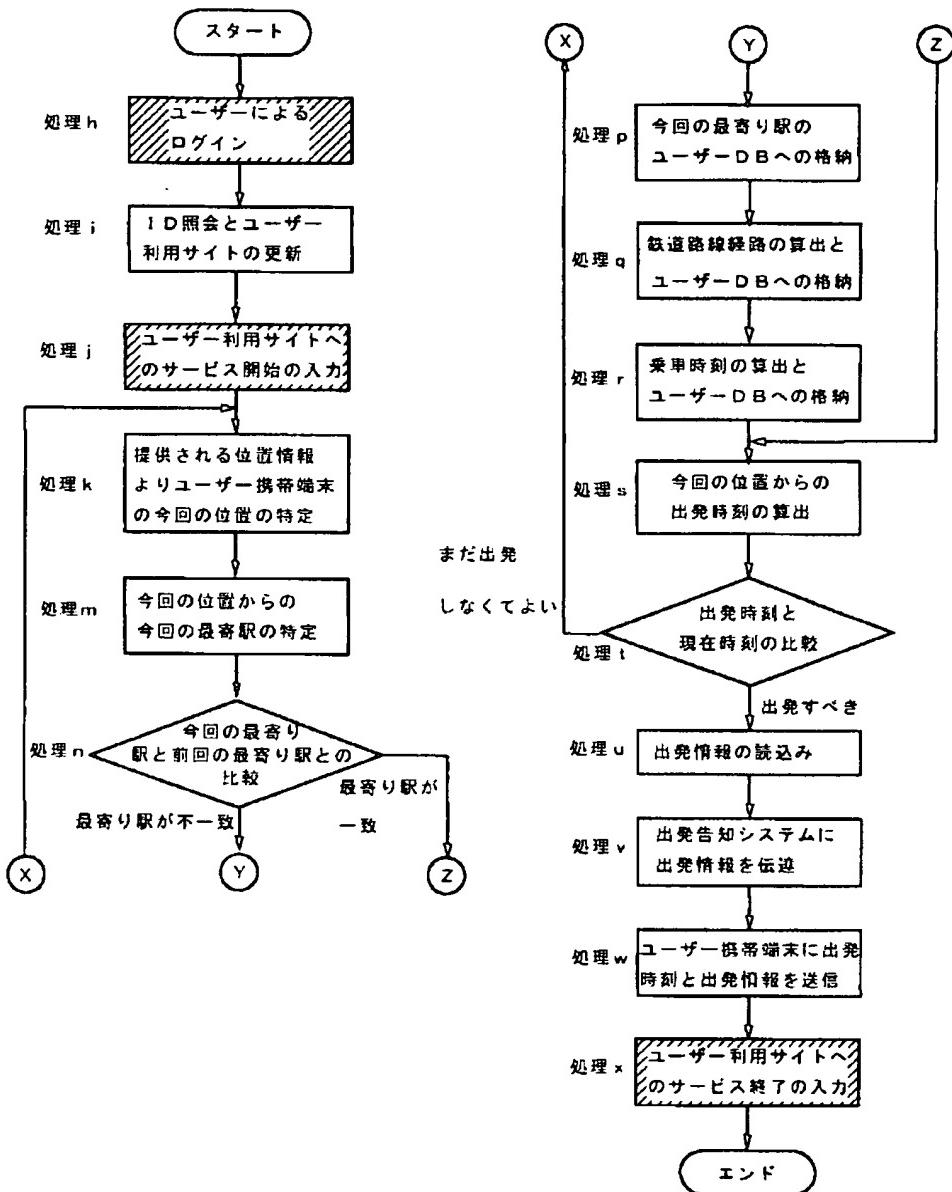
【図5】



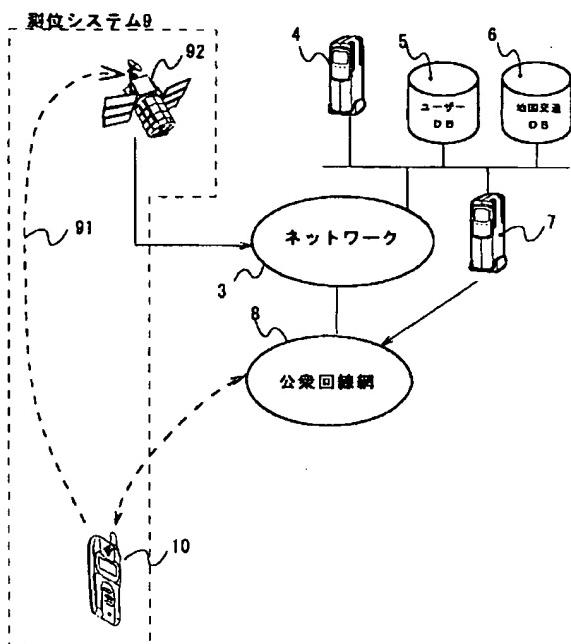
ユーザーDB：ユーザーデータベースの略称

【図4】

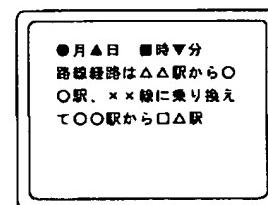
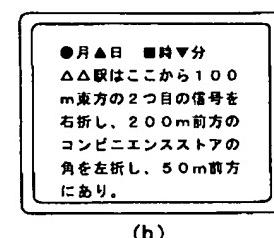
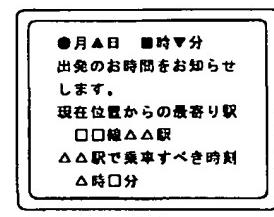
出発情報お知らせサービス利用のフロー図



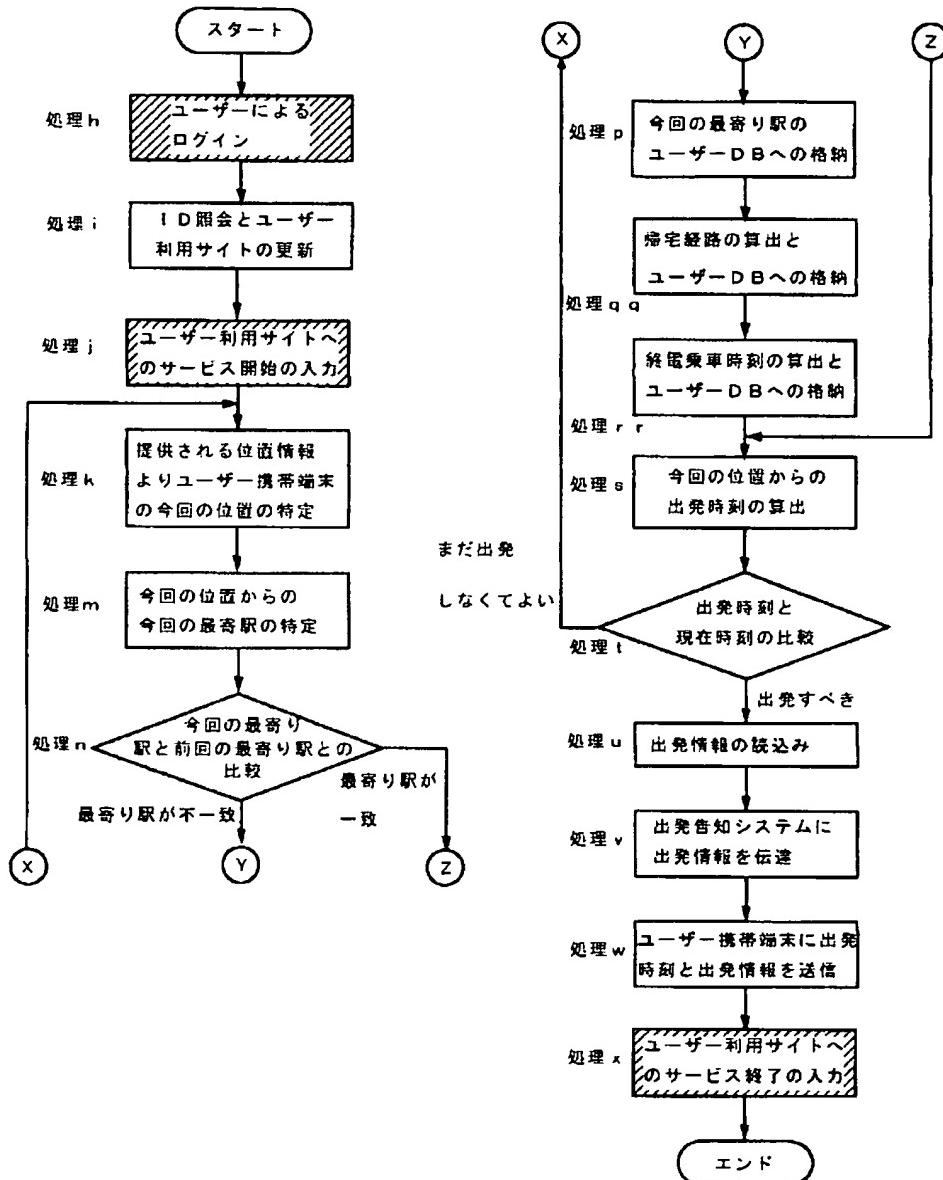
【図6】



【図8】



【図7】



終電情報お知らせサービス利用のフロー図

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷
// C01S 5/14

識別記号

F I
H04B 7/26

マーク(参考)

106A 5K067

F ターム(参考) 2F029 AA07 AB05 AC06
5B019 GA01 KA04
5H161 AA01 BB20 DD50 CC01 CC11
CC13 CC17 CC23 CC24
5H180 AA21 BB05 BB15 FF03 FF05
FF22 FF33
5J062 AA05 CC07 HH05
5K067 AA21 BB04 BB36 DD17 DD30
DD53 DD54 EE02 EE10 EE16
FF23 FF25 HH21 HH23 JJ52
JJ56 JJ64